

2-4 バイオマス調査

4. バイオマス銭湯調査

●目的・内容

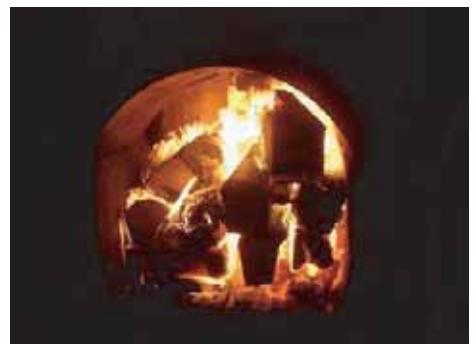
京都市内には多くの銭湯があり、昔から市民に親しまれてきました。その銭湯の燃料はかつて100%が東山などで採れる薪で賄わっていました。現在でも、数は少ないものの薪を利用している銭湯が残っています。それらを探し、現在の薪の需要や、燃料の移り変わり、薪で焚くことによる効果などに関する聞き取り調査を行い、実際に入浴してみました。



ボイラーに薪をくべる様子。
大きな薪は長く燃える。

●結果・考察

- 1 はじめに、京都府下の銭湯は全て加盟している公衆衛生組合で、聞き取り調査を行いました。京都府内では薪のみを利用している銭湯が22軒あることが分かりました。昭和30年以前は燃料は薪のみでしたが、それ以降徐々にA重油に変わってきたそうです。このところ銭湯の利用者は減少しており、1年に10件のペースで廃業しています。燃料に薪を使うことに対しては、輸送や切断などの手間や、置き場所を必要とすることから消極的でした。



ボイラーで燃える薪。ボイラーの近くはとても暑い。

- 2 次に薪を利用している銭湯に電話調査を行いました。調査を行ったのは、市内の9件の銭湯です。聞き取り結果を以下の表に示します。

*全体を通して●はポジティブな反応の銭湯 ▲はどちらかといえばネガティブな反応の銭湯 () は軒数

薪を利用する理由	●昔からずっとこの形式でやってきた。運動がてら。 ●焚き物を焚くというのは気持ちがいい。健康の証と思っている。 ▲薪のほうが安くてすむから。 ▲倉庫に入っているのを処分しなければいけないから。	
薪の利用量	・1t トラック山盛り1杯で3日分 ・1日軽トラに8割がた	・1日軽トラに半分くらい (2) ・1日軽トラ1杯分くらい (2)
利用する割合	・100% (5) ・薪9対重油1	・薪がないときだけ重油を使う ・夏は薪9:重油1、冬は半分半分
薪の調達方法	・工務店 (2) ・木の箱屋と、製材所のおがくず ・解体業者が5軒ほど入っている。市内と滋賀が一軒。	・大工さん ・建設業者